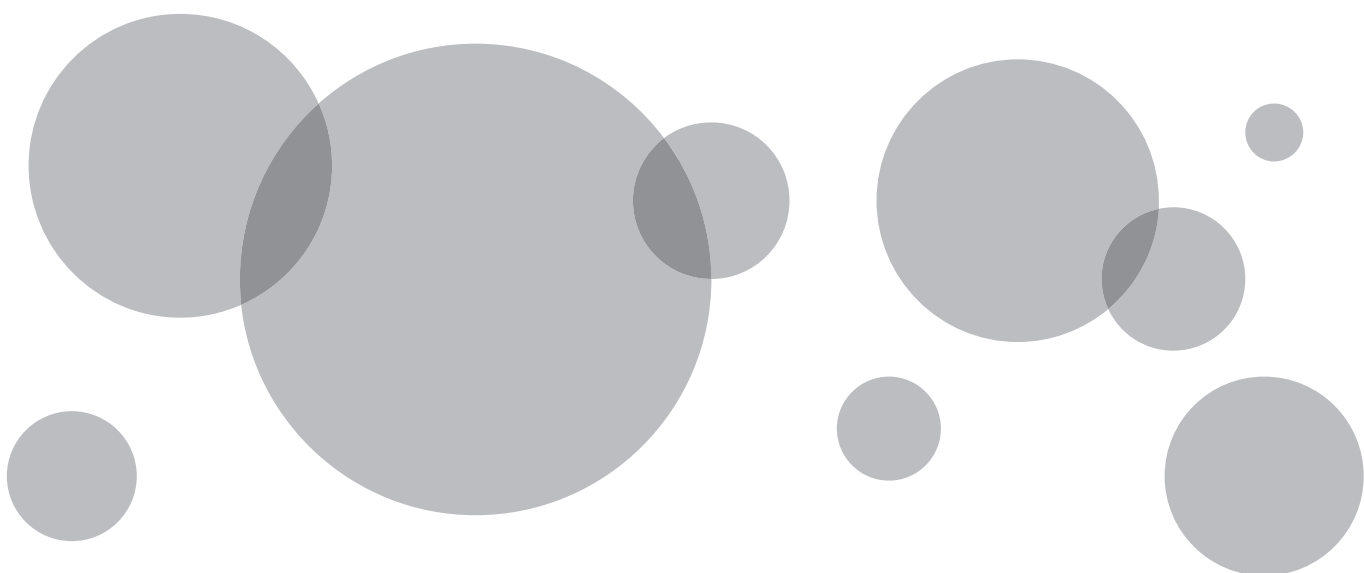


資料編



1 大潟村人口推計

(1) 年齢別人口の推計

(単位：人)

	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年
総数	3,194	3,188	3,179	3,169	3,160	3,150	3,141
0～4歳	148	149	151	153	155	157	160
5～9歳	147	147	148	148	149	149	150
10～14歳	151	149	148	148	147	146	146
15～19歳	180	171	167	164	160	156	153
20～24歳	211	214	207	196	190	180	171
25～29歳	198	199	201	204	207	209	212
30～34歳	181	197	197	198	199	199	200
35～39歳	116	111	128	150	170	176	194
40～44歳	148	133	128	124	117	115	110
45～49歳	206	202	188	174	160	145	131
50～54歳	216	220	216	212	208	204	200
55～59歳	185	193	196	197	203	211	215
60～64歳	149	147	155	166	170	179	186
65～69歳	169	147	146	145	144	143	141
70～74歳	240	243	225	201	180	161	140
75～79歳	209	210	212	213	215	222	225
80～84歳	172	178	179	179	180	182	182
85歳以上	168	178	187	197	206	216	225

第2期大潟村総合村づくり計画データ

(2) 高齢化率の推計

(単位：%)

	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年
高齢化率	30.0	30.0	29.9	29.5	29.3	29.3	29.1

第2期大潟村総合村づくり計画データより算出

2 アンケート調査のポイント

(1) 調査の目的

「大湊村地域福祉計画」策定に向けた基礎資料とするため、地域における課題を把握し、その解決に向けた取組を検討する参考となるように、福祉全般のことや施策ニーズについてアンケート調査を実施しました。

(2) 調査の実施状況

① 調査期間

平成30年3月9日～平成30年3月23日

② 調査方法

郵送による配布・回収

③ 調査対象

村内に居住している841世帯(1世帯につき、2票配布。うち、130世帯は単身世帯。)

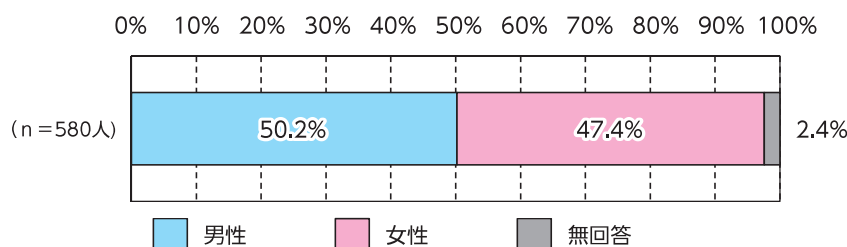
④ 回収状況

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,552票 (841世帯)	588票	580票	37.4%

※回収票=588票のうち、調査票への回答のないものが8票あったため、調査票への回答があった580票を有効票として集計を行っています。

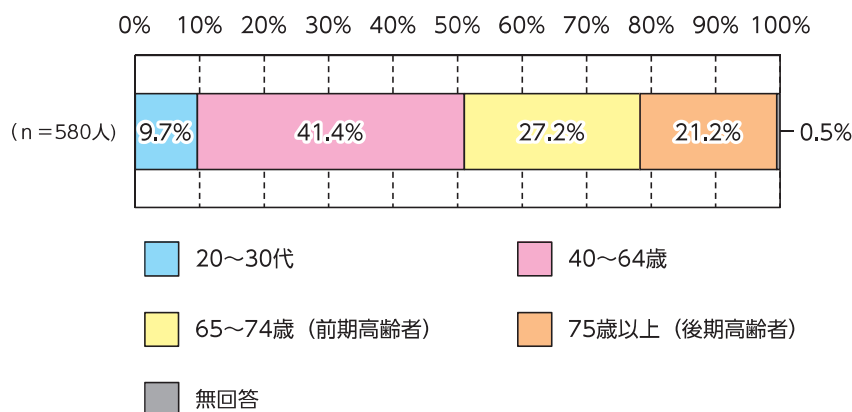
(3) 回答者の基本属性

1) 性別



回答者の性別は、「男性」50.2%、「女性」47.4%と、男女比はほぼ等しくなっています。

2) 年齢

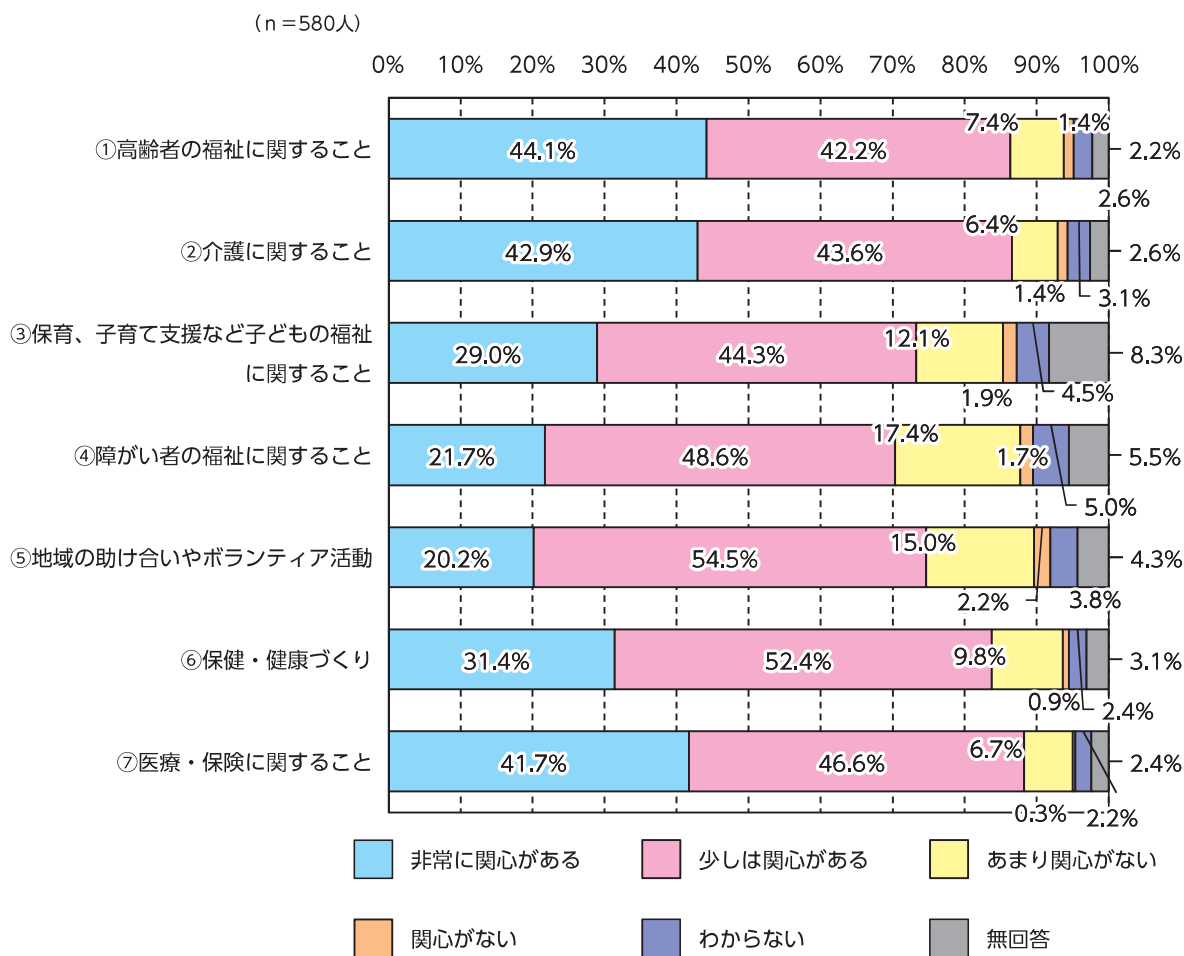


回答者の年齢は『40～64歳』が41.4%と全体の4割以上を占めています。

また、『65～74歳(前期高齢者)』(27.2%)、『75歳以上(後期高齢者)』(21.2%)もそれぞれ2割以上を占め、あわせると回答者の半数近くは高齢者が占めています。

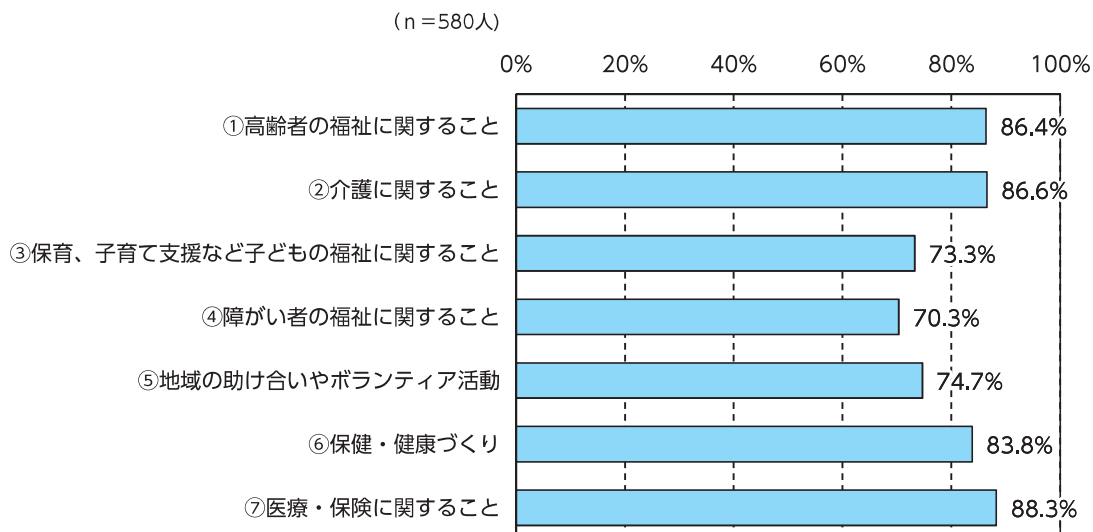
(4) 主な調査結果

1) 福祉分野ごとの関心の度合い

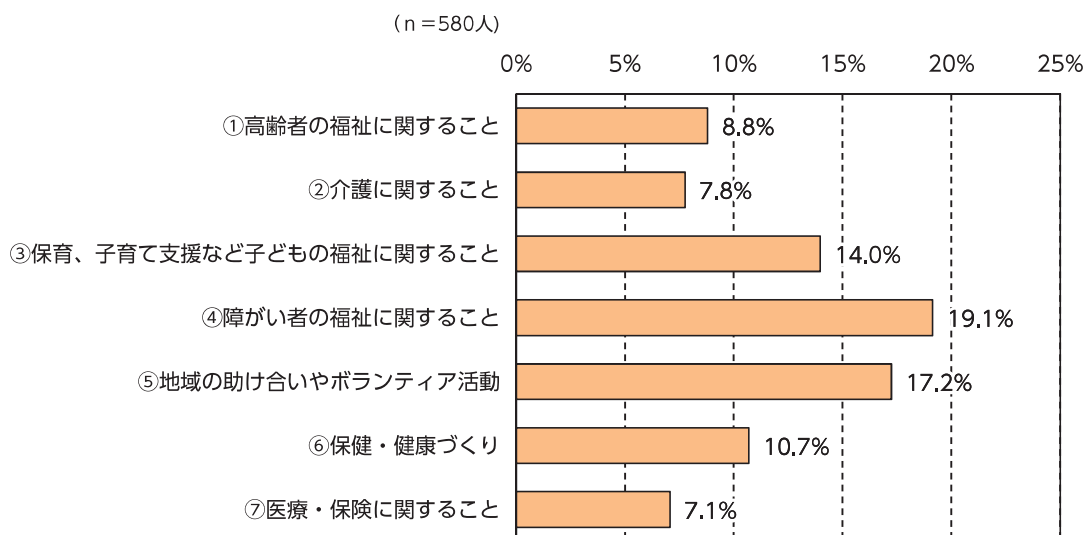


『①高齢者の福祉に関すること』(44.1%)、『②介護に関すること』(42.9%)、『⑦医療・保険に関すること』(41.7%)については、「非常に関心がある」との回答が4割を超えており、回答者の中では強い関心が持たれています。

<“関心がある” 福祉分野>



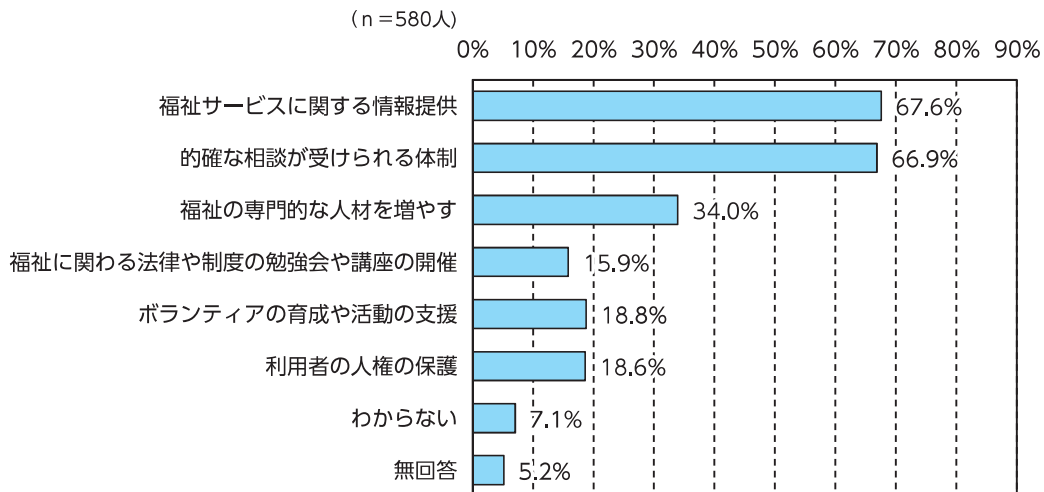
<“関心がない” 福祉分野>



「非常に関心がある」「少しは関心がある」を“関心がある”、「あまり関心がない」「関心がない」を“関心がない”として整理すると、①～⑦項目のすべてにおいて“関心がある”との回答が高い割合となっていますが、『③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること』、『④障がい者の福祉に関すること』、『⑤地域の助け合いやボランティア活動』については“関心がある”との回答は7割台と他の項目よりも関心の度合いが低くなっています。

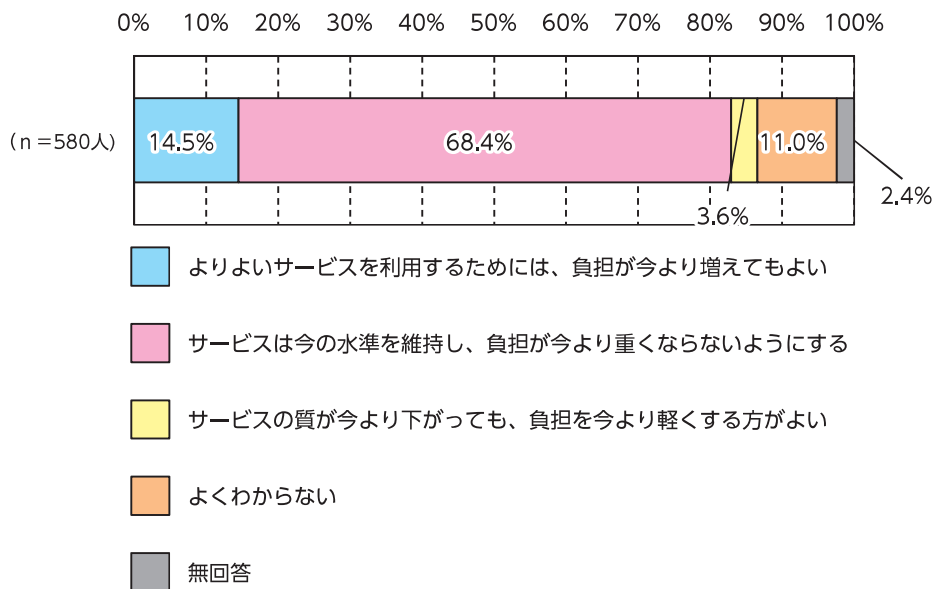
また、『③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること』、『④障がい者の福祉に関すること』、『⑤地域の助け合いやボランティア活動』の3項目については、“関心がない”との回答の割合が他の項目よりも高くなっています。

2) 最適なサービス利用のために必要なこと



利用者が自分にあった最適な福祉サービスを利用するために必要なこととしては、「福祉サービスに関する情報提供」(67.6%)、「的確な相談が受けられる体制」(66.9%)への回答がともに6割を超え、「情報提供」と「相談体制の充実」が必要と考えられています。

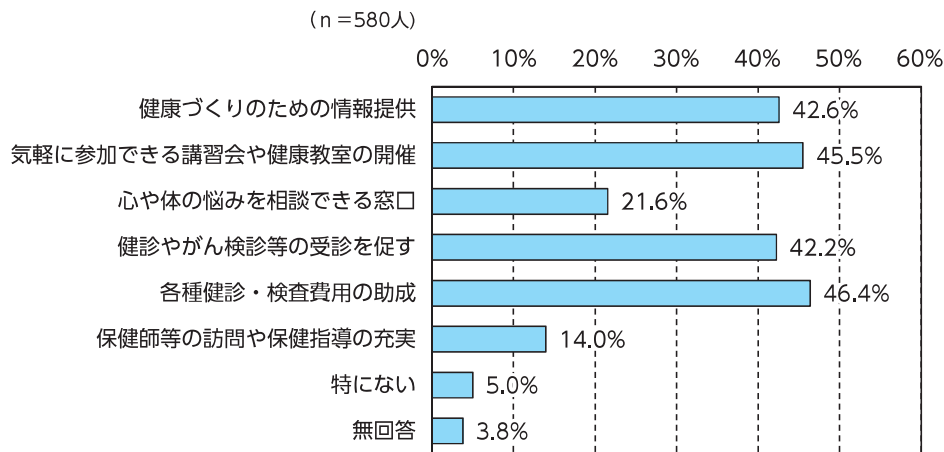
3) 福祉サービスと税負担のバランスについて



福祉サービスと税負担のバランスについてみると、68.4%と7割近くは「サービスは今の水準を維持し、負担が今より重くならないようにする」としており、サービス水準も負担も現状維持を希望しています。

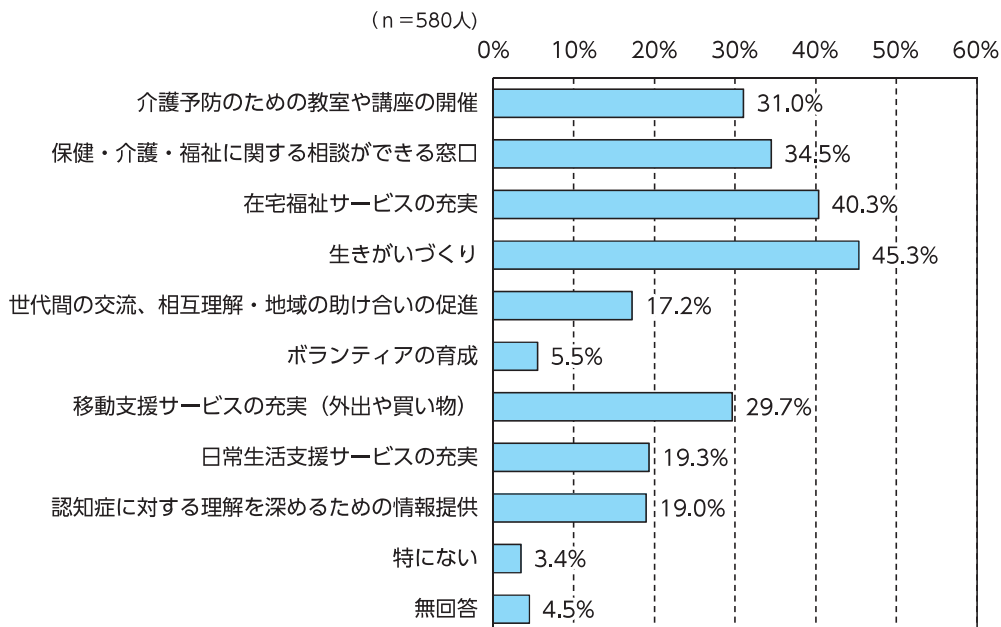
「サービスの質が今より下がっても、負担を今より軽くする方がよい」(3.6%)よりも、「よりよいサービスを利用するためには、負担が今より増えてもよい」(14.5%)への回答の割合の方が高く、サービス水準の低下を容認する回答は少なくなっています。

4) 健康づくりのために必要な取組



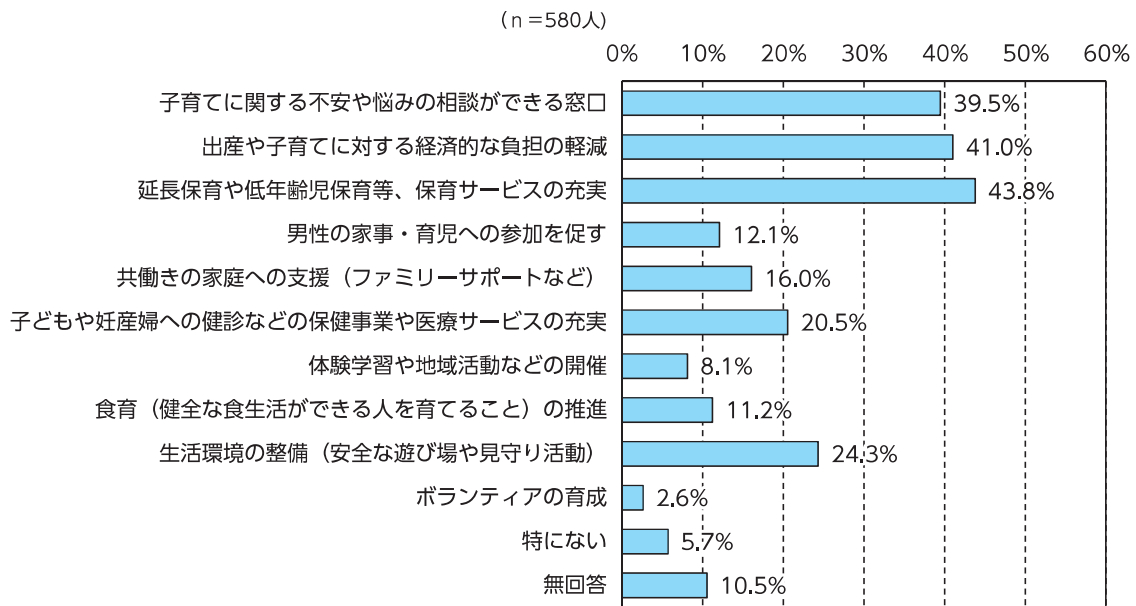
健康づくりのために必要な取組としては、「健康づくりのための情報提供」(42.6%)、「気軽に参加できる講習会や健康教室の開催」(45.5%)、「健診やがん検診等の受診を促す」(42.2%)、「各種健診・検査費用の助成」(46.4%)など、多くの項目で必要という回答が4割を超えていますが、「心や体の悩みを相談できる窓口」(21.6%)と「保健師等の訪問や保健指導の充実」(14.0%)への回答は他の項目に比べて回答の割合が低くなっています。

5) 高齢者の生活支援のために必要なこと



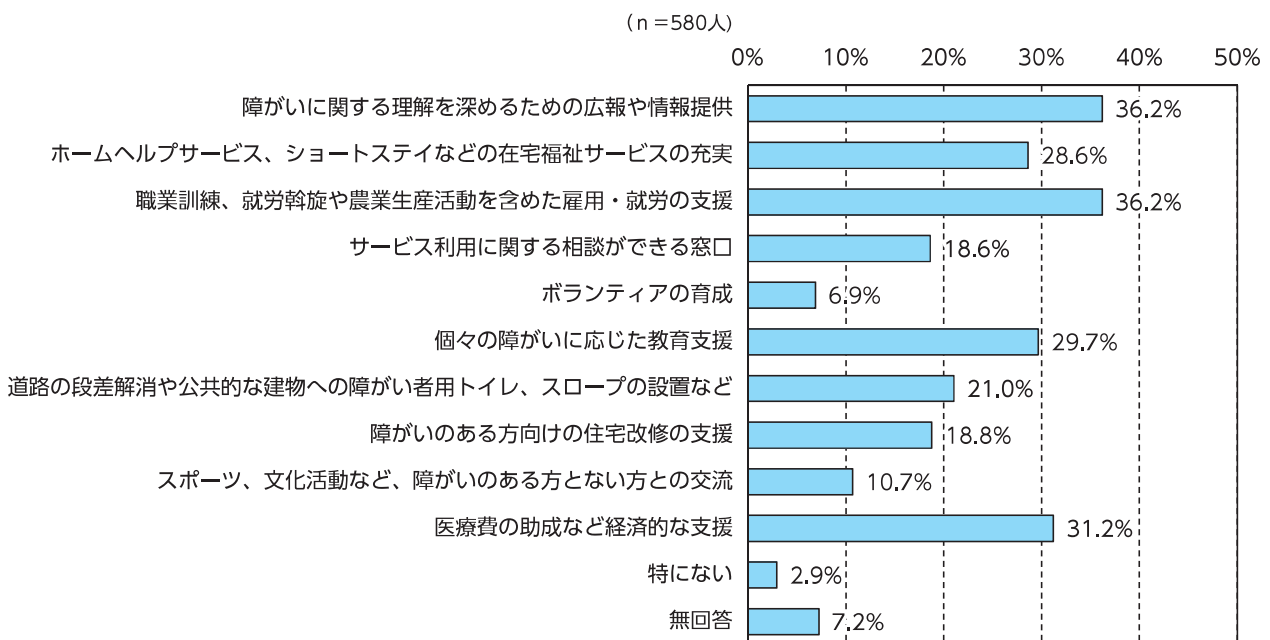
高齢者が自立した生活を送っていくために必要なこととしては、「生きがいづくり(ボランティア、文化・スポーツ、農業などの活動促進等)」への回答が45.3%で最も多くなっています。ついで「在宅福祉サービスの充実(ホームヘルパーの派遣やデイサービスの拡充など)」が40.3%となっています。

6) 子育て支援のために必要なこと



子育て支援に必要なこととしては、「延長保育や低年齢児保育等、保育サービスの充実」(43.8%)、「出産や子育てに対する経済的な負担の軽減」(41.0%)、「子育てに関する不安や悩みの相談ができる窓口」(39.5%)が4割前後以上を占めて、回答の割合が高くなっています。

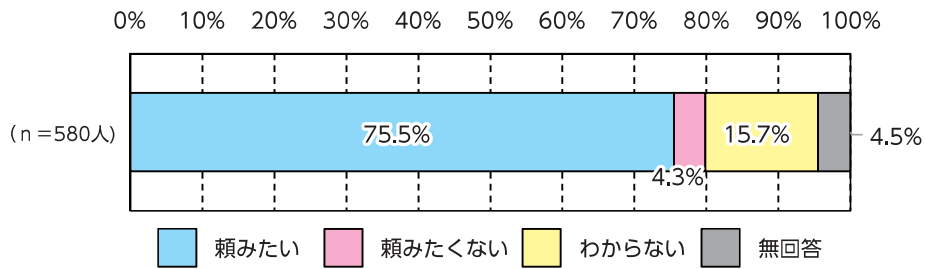
7) 障がい者支援のために必要なこと



障がい者支援のために必要なこととしては、「障がいに関する理解を深めるための広報や情報提供」(36.2%)、「職業訓練、就労斡旋や農業生産活動を含めた雇用・就労の支援」(36.2%)、「医療費の助成など経済的な支援」(31.2%)などへの回答の割合が高く、障がいに対する理解促進と、雇用・就労支援、医療費の助成などのニーズが高くなっています。

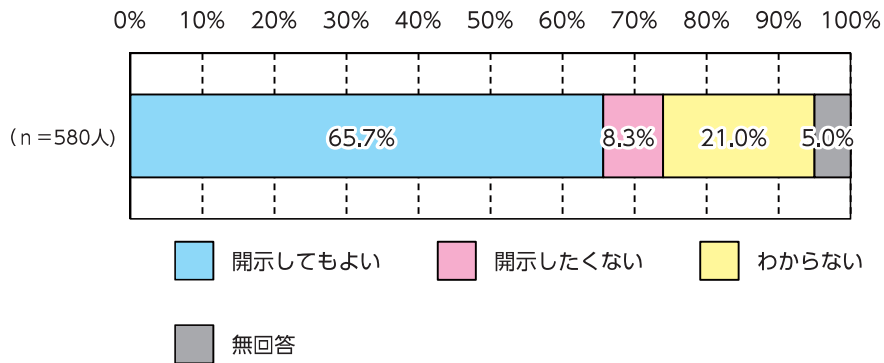
8) 災害時の助け合いについて

<災害時の自治会などからの援助の必要性>



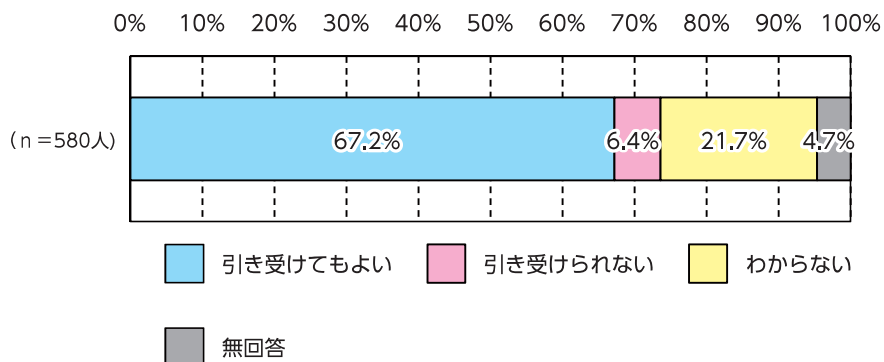
災害時の自治会などからの援助については、75.5%が「頼みたい」としています。

<災害時の避難支援のための個人情報の開示意向>



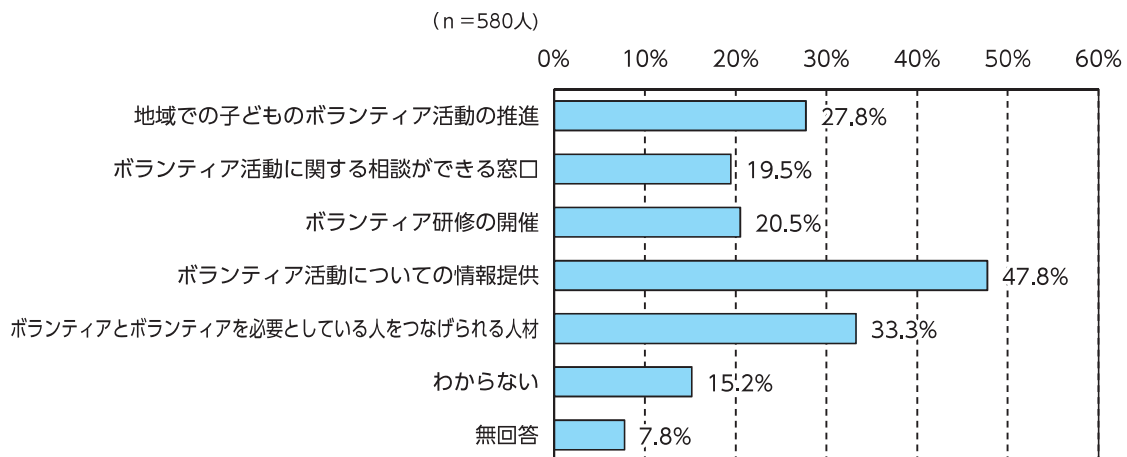
災害時の避難支援のための個人情報の開示については、65.7%が「開示してもよい」としていますが、災害時に自治会などからの援助を「頼みたい」(75.5%)という回答に比べると、やや回答の割合が低くなっています。

<災害時の要援護者への避難支援の協力意向>



災害時の要援護者への避難支援の協力については、67.2%が支援を「引き受けてもよい」としています。

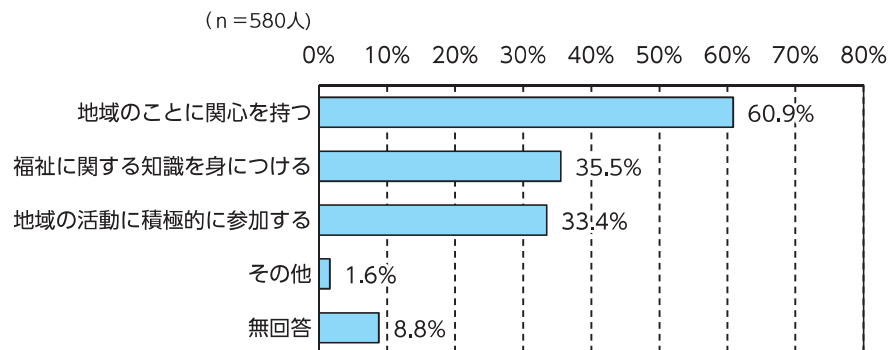
9) ボランティア活動促進のために必要なこと



ボランティア活動促進のために必要なことについては、47.8%と半数近くが「ボランティア活動についての情報提供」と回答しており、必要な情報が十分には伝わっていない可能性が考えられます。

10) 自助、共助、公助において重要なこと

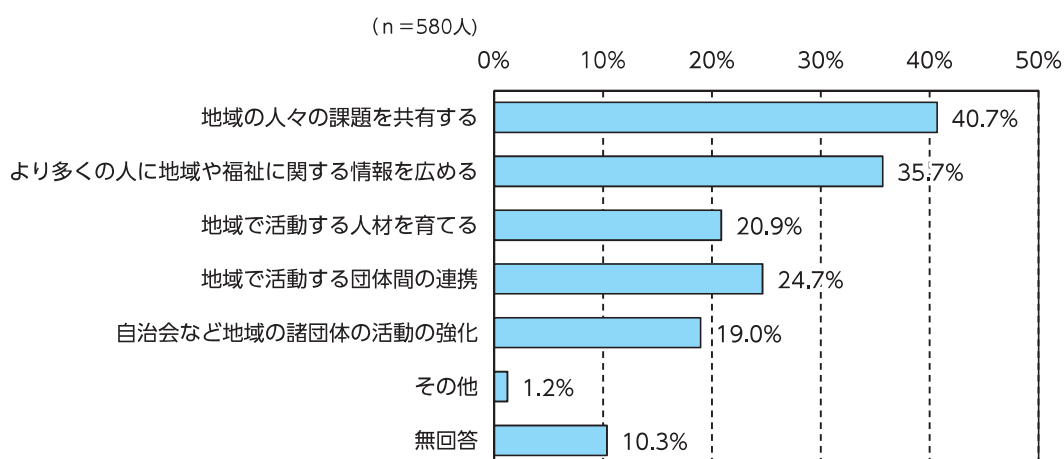
①自助



『①自助』において重要なこととしては、「地域のことに興味を持つ」が60.9%で最も多くなっています。

まずは一人ひとりが地域のことに興味を持つことが重要と考えられています。

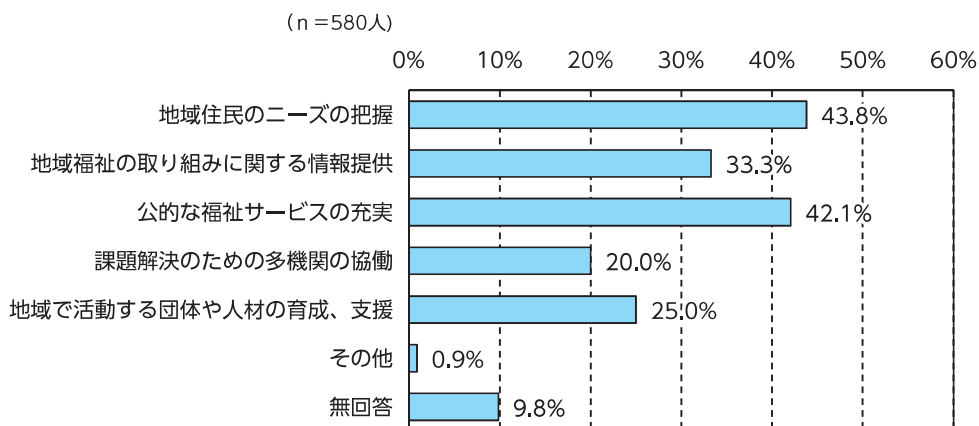
②共助



『②共助』において重要なこととしては、「地域の人々の課題を共有する」が40.7%で最も多く、ついで「より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」が35.7%となっています。

地域の中で情報を広め、課題を共有し、横の広がりを強めていくことが共助において重要と考えられています。

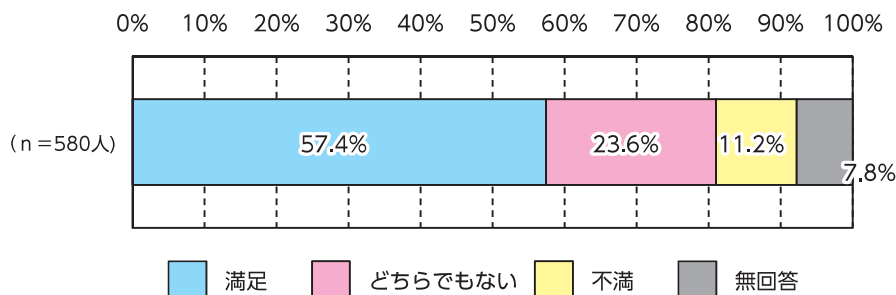
③公助



『③公助』において重要なこととしては、「地域住民のニーズの把握」(43.8%)と「公的な福祉サービスの充実」(42.1%)がともに4割を超えて多くなっています。

公助においては、住民ニーズを把握して、ニーズに即して的確なサービスの充実を図ることが重要と考えられています。

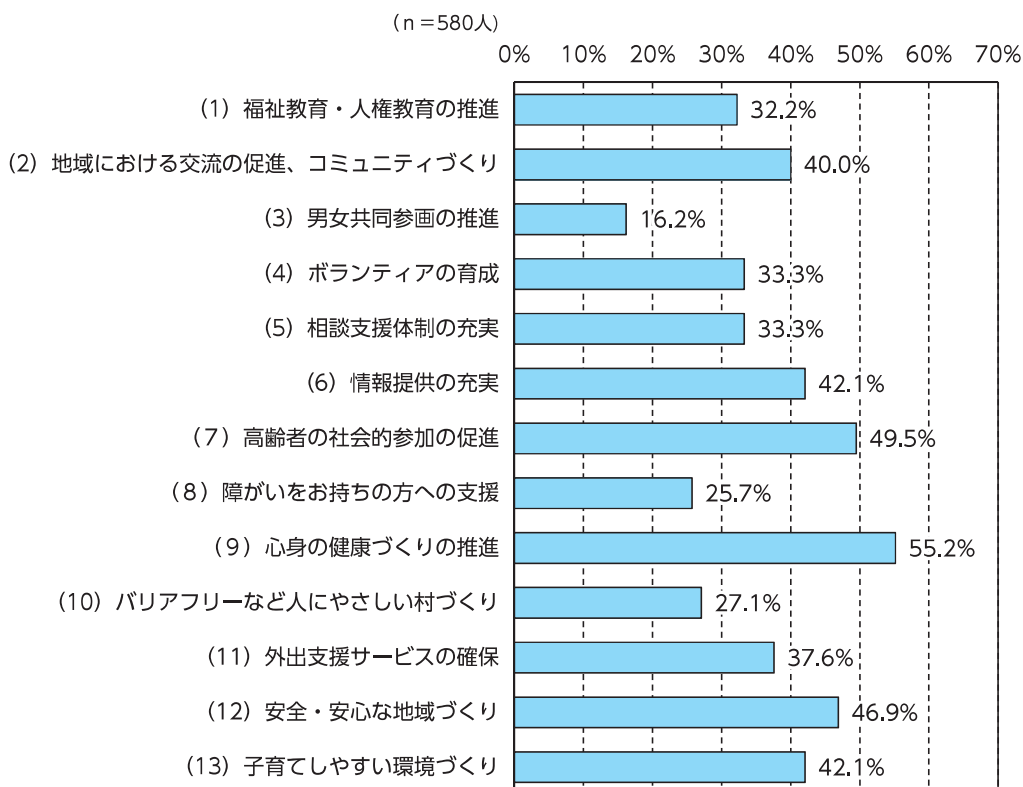
11) 大潟村の地域福祉の取組に対する総合満足度



大潟村のこれまでの福祉施策については、「やや満足」と「満足」とあわせると、57.4%と半数以上が『満足』としており、「やや不満」と「不満」をあわせた『不満』という評価の11.2%を大きく上回る人が満足と評価しています。

12) 大潟村の地域福祉施策に対する満足度と重要度

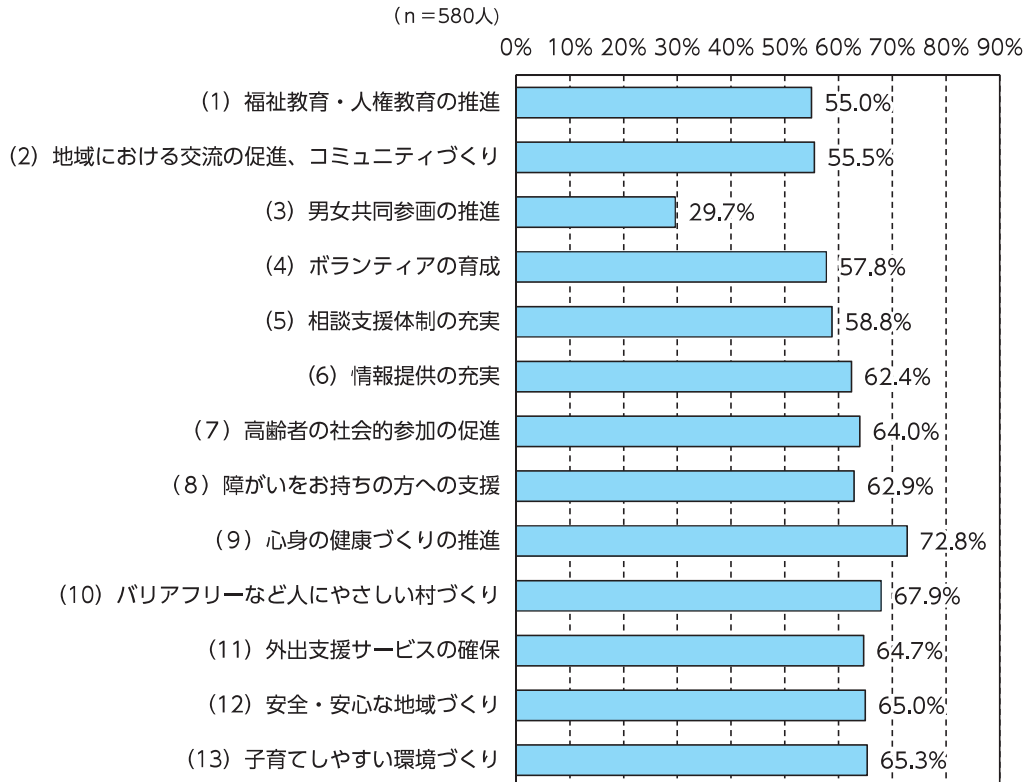
<“満足している” 主要施策>



「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”という回答の割合について整理すると、「(9)心身の健康づくりの推進」が55.2%と最も多く、回答者の半数以上が満足していると評価しています。

ついで「(7)高齢者の社会的参加の促進」も49.5%と半数近くが満足していると評価しており、「(12)安全・安心な地域づくり」(46.9%)、「(6)情報提供の充実」(42.1%)、「(13)子育てしやすい環境づくり」(42.1%)、「(2)地域における交流の促進、コミュニティづくり」(40.0%)などについても4割以上が満足していると評価しています。

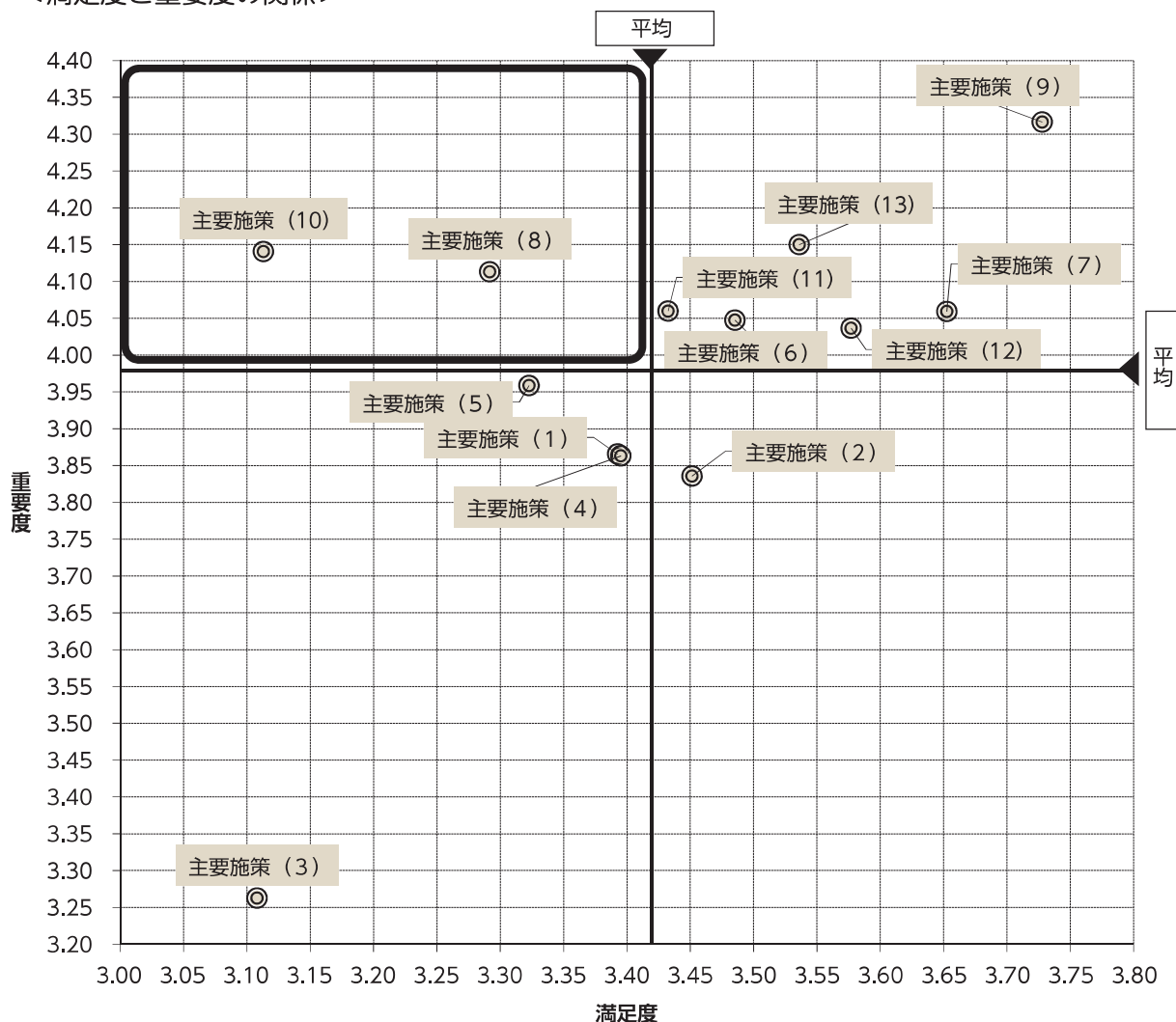
<“重要と思う” 主要施策>



「重要」と「やや重要」をあわせた“重要と思う”という回答の割合について整理すると、ほぼすべての項目で半数以上が重要と思うと評価しており、特に「(9)心身の健康づくりの推進」では72.8%が重要と思うと評価しています。

一方で、「(3)男女共同参画の推進」は29.7%で、重要と思うという評価が少なくなっています。

<満足度と重要度の関係>



【①満足度】

満足=5点、やや満足=4点、どちらともいえない=3点、やや不満=2点、不満=1点

【②重要度】

重要=5点、やや重要=4点、どちらともいえない=3点、あまり重要ではない=2点、重要ではない=1点

●①満足度と②重要度について、各回答を上記のように得点化し、横軸に満足度の平均得点、縦軸に重要度の平均得点を使用して、主要施策ごとの満足度と重要度の関係を整理したものが上記のプロット図です。

地域福祉推進における主要施策に対する満足度と重要度について整理すると、重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い課題領域に該当するものは、以下の2項目となっています。

- (8) 障がいをお持ちの方への支援
- (10) バリアフリーなど人にやさしい村づくり

これらについては最優先で改善を図り、満足度を高めていくことが必要だと考えられます。

また主要施策(1)福祉教育・人権教育の推進、(3)男女共同参画の推進、(4)ボランティアの育成、(5)相談支援体制の充実についても満足度が低いため、満足度の向上が求められると考えられます。

3 座談会のポイント

(1) 座談会の目的

「大湊村地域福祉計画」策定に向けた基礎資料とするため、地域における課題等に関する村民との座談会を開催しました。

(2) 座談会の開催状況

① 開催場所

大湊村公民館「ちゃっこ」

② 開催日

第1回:平成30年8月21日(火)午前10時～

第2回:平成30年8月24日(火)午前10時～

第3回:平成30年8月27日(月)午前10時～

第4回:平成30年8月27日(月)午後1時30分～

第5回:平成30年8月28日(火)午前10時～

第6回:平成30年8月28日(火)午後1時半～

第7回:平成30年8月28日(火)午後7時～

③ 参加人数

延べ参加人数:住民8名、計画策定委員会委員9名

(3) 回答者の基本属性

1) 子どもの福祉について

- 安心して遊べる遊び場を充実させてほしい。
- 天候の悪いときなど、室内で遊べる施設が村内になくて不便。
- ひとり親として実家に住んでいる場合に、実際には親からの援助を受けていなくても、同一世帯として所得を計算されるため、いろいろな扶助が受けられなかったり、保育料が高くなってしまふ。
- 「やまぶき会(ひとり親家庭の方々の福祉団体)」がひとり親家庭の小、中、高校生への学習支援を実施しているが、ひとり親だけでなく貧困家庭への学習支援も含めて村でももう少し支援できないか。

2) 保育園跡地の活用について

- 子どもの遊び場やなかよし館の機能を持たせるような形にしてほしい。
- 外の遊具は保育園児向けだと思うので、検討してほしい。
- 調理室があるので、うまく活用してほしい。
- 若い人たちが使いやすい機能、施設にしてほしい。

3) 高齢者の福祉について

- アンケート結果では希望する介護の形態は、在宅と施設入所が半々だが、実際は施設入所する人が多くなると思う。
- 高齢者は健康づくり、生きがいづくりが重要。
- 介護予防教室や転倒予防教室の回数を増やしてほしい。
- ひとり暮らしの高齢者にとっては隣近所との人付き合いや声かけは大事。定期的に誰かが顔を出してくれるとありがたい。
- 除雪が大変なのでボランティアに頼みたい。
- ケアハウスの入所者はあまり外に出ていないようで、運動不足なように感じる。
- 特養では以前はボランティアによる「傾聴」を実施していた。今はやっていないので、入所者の人が寂しいのではないかと思う。
- 配食サービスを毎日実施できないか。
- 子育て世代も高齢者福祉について勉強したい気持ちはあるが、今は子育てで精いっぱい。
- ケアハウスのような高齢者が自立して生活できる施設がもっとあったらいい。
- 認知症対応型グループホームの設置を検討してはどうか。

4) 健康づくりについて

- 運動施設、トレーニング施設を充実させてほしい。
- 若い人にとっても、高齢者にとってもトレーニング施設は必要だと思う。
- 訪問診療の実施を検討してほしい。
- 心の悩みを相談できる窓口も必要だと思う。
- 保健センターでは年4回、専門家を呼んで、心の相談事業を実施しているが、専門家でも合う合わないがあるし、専門の分野もいろいろあるので難しい。むしろ仲間づくりやグループミーティングなども大事だと思う。専門家でなくても経験者など寄り添ってくれる人が分野別にわかれば相談しやすい。
- 心の悩みを抱えている人は窓口に行きたがらない。訪問されるのも嫌な場合がある。

5) 移動支援について

- 移動支援について具体的に検討してほしい。
- マイタウンバスの再編とあわせて移動支援を考えてほしい。
- 社協で実施している農繁期の病院への移送サービスを通年で病院以外にも使えるようにしてほしい。
- 家族が忙しいときは運転を頼みづらい場合もある。それぞれの事情に対応した移送サービスが必要だと思う。
- 高齢者の運転は危険な場合もあり、運転免許返納の理解促進も必要だが、運転できなくなると、村は不便で住みづらい。活動範囲も狭まるので移動支援は重要。
- 頻繁に巡回するバスや自動運転車両などの検討も必要だと思う。
- 高齢者でもハウスに行きたい人はいる。生きがい対策にもなるので、それぞれのニーズに対応できる移送サービスが必要。

6) バリアフリーについて

- 電動車いすが増えてきている。歩行者扱いだが、村の歩道は狭くデコボコなので整備が必要だと思う。
- サルビアの花壇があることで、歩道が狭くなっている。
- 自宅に高齢者と子どもがいると、高齢者のために住宅のバリアフリー化をしても子どもにとってはよくない場合もあり対応が難しい。
- 役場や農協などにはエレベーターがなく、高齢者や障がい者にとっては階段を上るのは大変。

7) 近所づきあい・助け合いについて

- 福祉マップづくりなどは村と社協が連携してつくっていくべきだと思う。
- 災害時に支援が必要な人などの情報がわからない。最近は個人情報保護のためか、そういった情報が共有されにくい。
- 村内の団体には近所の人から誘われて加入した。その団体でしかできないつながりもあるので、よかったと思う。

8) 男女共同参画について

- アンケート結果で男女共同参画の重要性が低いという結果になった。村の周知の仕方が悪いのではないか。村民がきちんと理解できていないと思う。
- 強化月間(6月)に広報するとか、相談窓口を設けるなどの対応は必要だと思う。
- 若い人たちにとっては、男女共同参画は普通のことになってきているのではないかと思う。殊更に叫ぶ時代でもないのかなと感じる。
- 年代によっても考え方が違う。若い人たちは男女共同参画は普通のことだが、年配の人の方が理解していないように思う。それでも今の時代、村の人は男女間格差や不平等を感じる場面は少ないと思う。
- 農家になる前の職場も含めて、仕事上で男女間格差や不便を感じたことはない。子育てでは、不平等というよりは役割の違いかなとも思う。
- 「フレッシュ・ミズ」の皆さんは、すごく能力があるのに活躍できる場が少ないと思う。子育て世代はとても忙しいが、もう少し活躍できる場や機会があればと思う。

9) ボランティアについて

- ホームヘルパーの資格を持っている人が高齢になってきている。
- ホームヘルパーの講座は拘束される時間が長すぎて、子育て世代には難しいと思う。
- 自分の家族のことを考えるとホームヘルパーの資格は取得しておいて損はない。
- ボランティアは後継者不足で、世代交代が進まない。
- ボランティアは基本的に無償で、有償の部分はNPO法人などが担うべき。
- ボランティアが無償だと逆に頼みにくい。有償の方が頼みやすいという人もいる。
- 小さい村なので、村内のボランティアやヘルパーは頼みにくいと思う。
- 村内にヘルパーを斡旋する仕組みや事業所があれば頼む人はいると思う。
- アンケート結果ではボランティアに対する意識が低いような結果だった。ボランティアに頼みたいことがあまりないのか、充足しているということかはわからないが、いずれにしても後継者不足である。

10) ひきこもりについて

- 子どものひきこもりについては、窓口への相談よりも、経験者と話すことが一番助かると思う。
- 自分の親と子ども両方がひきこもりなどの場合は、どちらも看るのは大変。親には外での社会参加の機会があればそうしてほしいと思う。
- ひきこもりの高齢者は多い。高齢者へのDVもあると聞く。村は同居率が高いので、うまくいっているようにみえるが、高齢者はあまり声を上げないので実は孤独な高齢者というのも少なくない。
- ひきこもりの高齢者の居場所づくりは大事。「ちょこっと(ふれあい交流サロン)」も行く人は決まっている。
- ひきこもりの高齢者は軽作業とかはできるので、人手不足になっている農作業とマッチングして賃金を払うことで、外に出てきてくれる。自立と支援のバランスが大事だと思う。

11) 地域福祉全般について

- 様々な地域課題がある中で、社協がもっと臨機応変に対応できるシステムや仕組みが必要だと思う。正職員が少ないことも課題。
- 農福連携の取組で、ひきこもりの高齢者の居場所づくりと障がい者も一緒に作業している。
- 地域共生社会は住民が主体となって、地域課題の解決に取り組むとのことだが、住民ばかりに負担がかかるのも厳しい。村や社協も一緒に取り組んでほしい。
- 村では地域おこし協力隊があまり定着していないように思う。村の後継者とは異なる感覚を持った人材の確保、支援も必要だと思う。
- アンケートの回収率が37.4%と低く、村全体を把握したことにはならないと思う。
- 座談会を年代別にわけて実施したのはよかったと思う。ふれあい健康館でも実施してほしい。
- 福祉サービスを必要としている人の意見をもっと聞けるような工夫が必要だと思う。

4 大潟村地域福祉計画策定委員会

(1) 設置要綱

第2期大潟村地域福祉計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 大潟村の福祉の基本計画と位置づけ、村民と行政がともに取り組んでいくことを目的として、社会福祉法(昭和26年法律第45号)第107条の規定に基づき平成24年3月に策定した大潟村地域福祉計画の計画期間終了に伴い、第2期大潟村地域福祉計画を策定するため策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員15名以内で組織する。

- 2 委員は、地域福祉に関わる関係者で構成し、村長が委嘱する。
- 3 委員会に、学識経験を有するアドバイザーを置くことができる。

(委員長および副委員長)

第3条 委員会には委員長および副委員長を置く。

- 2 委員長は、副村長とし、副委員長は、社会福祉協議会会長とする。
- 3 委員長は、委員会を総理し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、または委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は平成31年3月31日までとする。

- 2 委員が委嘱された時における当該身分を失った場合は、委員を辞したものとみなす。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

(意見の聴取等)

第6条 委員会は、必要に応じて、委員長の判断で委員以外の者を出席させ説明や意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、住民生活課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関して必要な事項は、村長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成30年2月1日から施行する。

(効 力)

- 2 この要綱は、平成31年3月31日をもって、その効力を失う。

(2) 委員名簿

第2期大潟村地域福祉計画策定委員会名簿

●委員

	所 属	職	氏 名	備 考
1	大潟村	副村長	工藤敏行	(委員長)
2	大潟村社会福祉協議会	会 長	土田章悟	(副委員長)
3	大潟村教育委員会	教育長	北林 强	
4	大潟村特別養護老人ホームひだまり苑	施設長	鈴木 学	
5	大潟つくし苑	施設長	佐藤 亘	
6	大潟村民生児童委員協議会	会 長	加藤則子	
7	大潟村身体障がい者協会	会 長	松橋勝悦	
8	大潟村老人クラブ連合会	会 長	櫻木義忠	
9	大潟村婦人会	会 長	山本嘉子	
10	大潟村フレッシュ・ミズ	執行部	中山郁恵	平成29年度
		執行部	村上和子	平成30年度
11	大潟村ボランティア連絡協議会	幹 事	森田勝利	
12	ふれあいネット「ぬくもり」		遠藤順子	
13	大潟村手をつなぐ育成会	会 長	畠山政雄	
14	大潟村診療所	所 長	福田 進	平成29年度
		所 長	岩村文彦	平成30年度

●アドバイザー

	所 属	職	氏 名	備 考
1	秋田地域振興局福祉環境部	次 長	藤田和彦	平成29年度
		次 長	長岐武彦	平成30年度

●事務局

	所 属	職	氏 名	備 考
1	住民生活課	課 長	加島 薫	
2	住民生活課	主 任	庄司都志哉	
3	教育委員会	主 任	菅原 聡	
4	保健センター	主 査	遠藤有子	
5	地域包括支援センター	課長補佐兼保健師	小瀧 みゆき	
6	大潟村社会福祉協議会	主 任	池田昌弘	

(3) 策定経過

実施日	会議名等	内 容
平成30年2月23日	第1回大潟村地域福祉計画 策定委員会開催	・ 策定委員会設置及び要綱について ・ 大潟村地域福祉計画の概要について 計画の概要 策定方法及び概略日程 アンケート調査
3月9日 ～ 3月23日	大潟村地域福祉計画 アンケート調査実施	・ 全戸にアンケート調査用紙配布 (1世帯に2票配布、回収率 37.4%)
7月26日	第2回大潟村地域福祉計画 策定委員会開催	・ アンケート調査の結果について ・ 座談会の開催について
8月21日 ～ 8月28日 (全7回)	座談会(年代別に実施) ・39歳以下(2回) ・40歳～64歳まで(2回) ・65歳以上(2回) ・全住民(1回)	・ 大潟村公民館「ちゃっこ」 ・ 延べ出席者 住民：8名 委員：9名
10月19日	第3回大潟村地域福祉計画 策定委員会開催	・ 座談会の結果について ・ 計画骨子(案)について
12月25日	第4回大潟村地域福祉計画 策定委員会開催	・ 大潟村地域福祉計画(素案)について
平成31年2月7日	大潟村議会全員協議会	・ 大潟村地域福祉計画の策定経過等について ・ 大潟村地域福祉計画(素案)の概要について
2月13日 ～ 2月22日	地域福祉計画 パブリックコメント	・ 役場HPに掲載 ・ 住民生活課窓口、公民館、保健センター、 ふれあい健康館で配布
3月1日	第5回大潟村地域福祉計画 策定委員会開催	・ パブリックコメントの結果と対応について
随 時	事務局内での検討	・ アンケート内容、座談会実施方法、計画案 について検討

第2期大瀧村地域福祉計画

平成31年3月

発行・編集 **大瀧村**

〒010-0494

秋田県南秋田郡大瀧村字中央1-1

TEL:0185-45-2114